

全国の自治体における流域活性化に関する研究 (第30回全国川サミット in 岡崎)

Study of Watershed Revitalization in Local Governments Nationwide (30th National River Summit in Okazaki)

審議役 土屋 信行

水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 清水 晃

水循環・まちづくり・防災グループ 次 長 風間 聡

1. はじめに

全国川サミットは一級河川名と同じ名を持つ自治体が主体となり「全国川サミット連絡協議会」が平成4年度に設立され、自発的に開催してきた。現在では河川の流域内の自治体全体に開催都市の範囲が拡大され、発展している。河川流域の市区町村は長い歴史の中で育まれた川と地域の関わりに誇りを持っており、「おらが川おらが町」という強い気持ちが地域の文化となってきた地域である。川への共通の思いや、川と住民のかかわり方の課題などを話し合われている。まさに現在の流域治水の取り組みの在り方に合致する活動でもある。

毎年、隔年、不定期など柔軟な取組みとして継続していくことを決定した。



2. 第30回全国川サミット in 岡崎

岡崎市は水源の森から矢作川に合流するまでの流域全体が市域内にある乙川でのかわまちづくりをテーマに、水辺空間の活用にとどまらず、治水・利水・親水・環境保全などの流域全体の課題解決に向けた活動にまで対象を広げた川サミットを開催した。

当研究所は共同事務局として参加すると共に、過去の資料収集・提供等の役割も担っている。

2-1 川サミットのテーマ

岡崎市の川サミットのテーマ「河川空間とまち空間の融合～川の歴史の継承と新たな交流を目指して」の紹介を皮切りに参加 13 自治体の首長がそれぞれの自治体の川とのかかわりと活動を紹介した。

2-2 全国川サミットの実施内容

◎参加自治体 (全 13 自治体)

①全国川サミット連絡協議会 (9 自治体)

秋田県横手市、岩手県一関市、福島県湯川村、
山形県鮭川村、群馬県みなかみ町、東京都江戸川区、
愛媛県大洲市、宮崎県宮崎市、愛知県岡崎市

②矢作川流域自治体 (4 自治体)

豊田市、安城市、西尾市、碧南市 (全て愛知県)

◎全国川サミット連絡協議会総会(令和4年11月4日(金))

総会では令和3年に行った「今後の川サミットのあり方アンケート」の報告があり、サミット開催について



中根岡崎市長、高橋横手市長、石川一関市副市長、
三澤湯川村長、元木鮭川村長、阿部みなかみ町長、
天沼江戸川区環境部長、谷川大洲市建設部長、
高井豊田市副市長、神谷安城市長、中村西尾市長、
禰宜田碧南市長

◎川サミット式典（令和4年11月5日（土））

①シンポジウム事例発表

- 1) 乙川リバーライフ
- 2) 乙川かわまちづくり
- 3) 矢萩川カーボンニュートラルプロジェクト
- 4) 「川の関係人口」を耕す乙川のかわまち

②パネルディスカッション

河川空間とまち空間の融合

～川の歴史の継承と新たな交流を目指して～



③第30回全国川サミット in 岡崎共同宣言（全文）

中央アルプス南端の長野県下伊那郡大川入山から三河湾に流れる全長約 118 kmの一級河川矢作川は、江戸から明治にかけて三河地域の物流の動脈として舟運が発達し、流域には20余りの荷物の揚げ降ろし場が設けられるなど、三河地域の発展に大きく貢献してまいりました。

中でも、矢作川中流域にある支川の一つ、一級河川乙川には、「五万石でも岡崎さまは、お城下まで船が着く」と民謡に唄われるように、岡崎城の眼下に舟運の要所として土場が設けられ、これが東海道と交わることから、岡崎城下は交通の要所として繁栄してきました。

かわまちづくり事業による河川空間の活用が、まちの新しい風景としてまちの魅力を高め、まちの賑わいを創り出すと共に、川がつなぐ上下流の地域の営みや、川がもたらす豊かな資源を守り、活かす活動に関わる「川の関係人口」を耕していくことを実感しています。

「第30回全国川サミット in 岡崎」は、徳川家康生誕の地、岡崎市を会場に、「河川空間とまち空間の融合—川の歴史の継承と新たな交流を目指して—」をテーマとして開催します。

今も昔も、流域に住む人々に恵みをもたらし続け

る川の大切さを再認識するとともに、次世代に向けてより良い川との共生を図っていくことを誓い、ここに宣言します。

○わたしたちは、先人が築いた、恵みをもたらす川の歴史や文化を守り、次世代へ引き継いでいきます。

○わたしたちは、災害から命や大切なものを守るため、防災への意識を高め、災害に強いまちづくりに取り組みます。

○わたしたちは、川とのふれあいを通して、ひとりひとりが川に興味を持ち、大切に守ることで、川を愛する豊かな心を育みます。

○わたしたちは、川と共存した美しいまちなみと、多種多様な生き物が生息する豊かな自然環境の保全に努めます。

○わたしたちは、人と人とのつながりを大切にし、自治体の境を越えて、川に関わる人々の交流の輪を広げます。

④次回「滋賀県守山市」へサミット旗引き渡し



3. おわりに

岡崎市は乙川を公民連携かわまちづくり地区として取り組んで行く基本計画「QRUWA 戦略」を定め、主要プロジェクトとして乙川かわまちづくりによる河川空間の活用が、新たなまちの風景と賑わいを創出すると人材育成にも取り組んできた。今回の「全国川サミット」の開催場所は、乙川の上流域の森林の木材を活用した木橋「桜の殿橋」を屋外会場として開催された。これはかわまちづくりと融合した地域産業と、それにかかわる川の関係者自身の魅力をも広く発信した。

当研究所は乙川のかわまちづくり基本計画策定から係わり、上下流の連携の要となる森林の健全性の確保と木材の地産地消を提唱してきた。今回の川サミットはかわまちづくりと流域治水の集大成として開催された。